

2023 年度予算編成方針

I. 予算編成に当たって

創立150周年に向けた長期ビジョン MEIJI VISION 150 では、今後10年の教育研究等のビジョンを定めるとともに、これを推進するための財政計画として2031年度までに基本金組入前当年度収支差額（以下、「収支差額」という。）が収入超過50億円の予算編成を行うことを掲げています。また、これを実現するため2022年度から5年間の第3期中期計画を策定しており、2022年度予算は計画どおり編成しました。

これまでの本学の財政状況は、決算の収支差額で見ると、2013年度、2014年度の支出超過から2015年度以降は緩やかに回復し、コロナ禍の影響により14億円の収入超過に留まった2020年度を除き、財政健全化の傾向にあり、2021年度は35億円の収入超過でした。

2023年度予算編成にあたっては、教育研究環境の整備及び教育研究活動の持続性を強固にしていくとともに、第3期中期計画どおり編成することを目標とします。

II. 予算編成上の主な内容

教育・研究の一層の高度化により本学のプレゼンスを高めるべく、2023年度「教育・研究年度計画書」の策定とその推進について（学長方針）における以下の項目を強く意識しながら予算編成を行います。

1. 教学に関する主要課題

(1) 教育

- ・予測不可能な時代において国内外の様々な課題に対峙し、自ら切り拓く「前へ」の精神を持ち、解決策への道筋を示すことができる人材を育成します。

(2) 学生支援

- ・学生一人ひとりが輝き、自らの成長と自己実現に向けて「前へ」進み、充実した学生生活が送れるよう、あらゆる多様性に配慮した環境を整えます。

(3) 研究

- ・飢餓や貧困、格差、地球温暖化などの地球的課題に向き合い、持続可能な社会の実現を目指し、また、世界の大学や研究機関との緊密な連携を図り、本学の研究活動を世界レベルで「前へ」推進します。

(4) 社会連携・社会貢献

- ・本学が所有する人的資源や図書館・博物館などの知的財産、ならびにそれらのネットワークを活用し、教育・研究・学生支援・国際連携・社会連携の学内諸機関がそれぞれの特性を生かして社会連携・社会貢献活動を行います。

(5) 大学運営

- ・どのような状況においても、建学の精神・教育理念に基づく教育・研究活動を維持し、また永続的に発展させることを可能にする体制の確立を目指します。

2. 施設・設備計画

(1) 各キャンパス等の施設計画

生田キャンパス第二中央校舎（仮称）の建設費を予算措置します。また、駿河台・和泉・生田・中野キャンパスの施設計画については計画の検討状況に応じて予算措置を検討します。

(2) 将来的な建替え及び大規模修繕に備えた資金計画

竣工後50年を経過している建物が15棟を数え、老朽化施設の建替え及び修繕が早急に必要になることから、2020年2月の理事会において策定した施設整備計画及び資金計画の方針に基づき、60億円の財源を確保することを目標とします。なお、既存建物の建替え以外の新規計画が策定された際は、別途資金計画を見直します。

(3) 情報環境整備

2021年9月の理事会において策定した情報化戦略に関わる情報環境整備の方針及び資金計画方針に基づき、今後20年間の各種システム更新、整備を見据えて、2023年度に始まり複数年に亘る計画については、2024年度以降の支出見込み額を情報化戦略推進引当特定資産に繰り入れます。更新中の教学系システム及び財務システムについては、2023年度必要額を情報化戦略推進引当特定資産から取り崩して引き続き予算措置します。

3. 人事計画

(1) 専任教員（特任・客員教員含む）任用計画に基づく予算措置

(2) 職員の人事計画に基づく予算措置

を原則としますが、過年度実績を考慮した予算措置を行います。

4. 財務計画

2023年度予算は、原則として2022年度予算を基本に策定します。

2020年度、2021年度の予算・決算の差異を分析したうえで、各部門

からの要求を精査し、収支見込から算定される全学及び部門別の収支差額を勘案して編成します。物価高の影響を考慮しつつ財政健全化を推し進めると同時に教育研究環境整備のための資金計画を推進すべく、第3期中期計画どおり予算編成することを目標とします。

(1) 事業活動収入

収入の主体となる学生生徒等納付金については、2018年度からの4年間、学部全体としての入学定員未充足の状況が続いていましたが、2022年度は入学定員を充足しました。2023年度も入学定員が充足されることを前提に、学部授業料の定額漸増分と合わせて収入総額を見込みます。

入学検定料収入については、近年の本学への志願動向を踏まえ今後どのように推移するかを考慮し収入額を見込みます。

補助金については、2021年度実績を基準に近年の補助金動向を考慮して見込みます。

また、未来サポーター募金制度を始めとする寄付金の積極的な受入れの推進、受託研究費及び競争的外部研究資金等の受入れ強化、競争的補助金の継続的な受入れ強化、積極的な施設の外部貸出し等も引き続き行います。資金運用については、一部資金において柔軟な運用を開始し、資金運用収入の増加を図ります。なお、学生の就学機会を継続させる観点から創設した「明治大学学生・教育活動緊急支援資金」への寄付金については一人でも多くの賛同者を得て増額することを目指します。

(2) 事業活動支出

明治大学グランドデザイン2030、MEIJI VISION 150、第3期中期計画及び前述の主要課題の実現に資する取組みに対し予算化することを主眼とします。授業については、オンライン・対面いずれの形式で実施される場合でも、学生の安全に必要な措置には予算を措置します。

これらの財源確保にあたっては、従来からの支出について費用対効果の検証を一層重視することにより、固定的な経費の見極めと個別経費についての精査による徹底した見直しを行います。新規要求についてはスクラップ&ビルドの考えのもとに、既存の予算を削減しその財源を明らかにして要求することを原則とし、提出された要求に対しては、効果や実績等を検証して査定します。

(3) 基本金組入計画

① 第1号基本金

2023年度に取得する土地、建物、構築物、機器備品、図書などの固定資産計上額を組み入れます。

② 第2号基本金

生田キャンパス第二中央校舎（仮）整備計画に組み入れます。

駿河台・和泉・生田・中野キャンパスの施設については計画が具体化した時点で検討します。

③ 第3号基本金

教育及び奨学金の充実に向け、積立て計画を策定及び実行し、対象基金の積立て分を組み入れます。

④ 第4号基本金

学校法人会計基準に基づき所定額を組み入れます。

以 上